

「献血推進のあり方に関する検討会」

委員名簿

	氏名	現職
1	飯沼 雅朗	社団法人日本医師会 常任理事
2	宇都木 伸	東海大学法科大学院実務法学研究科 教授
3	衛 藤 隆	東京大学大学院教育学研究科 教授
4	大平 勝美	社会福祉法人はばたき福祉事業団 理事長
5	掛川 裕通	日本赤十字社血液事業本部 副本部長
6	川内 敦文	高知県健康福祉部 医療薬務課長
7	河原 和夫	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授
○ 8	清水 勝	医療法人西城病院 理事
9	住友真佐美	東京都福祉保健局 保健政策部長
10	田辺 善仁	株式会社エフエム大阪 専務取締役
11	中島 一格	東京都赤十字血液センター 所長
12	羽田真由香	全国学生献血推進協議会 委員長
13	花井 十伍	ネットワーク〈医療と人権〉 理事
14	堀田美枝子	埼玉県立浦和西高等学校 養護教諭
15	山本シュウ	株式会社アミューズ所属 ラジオDJ

○…座長

論 点 (案)

1. 社会や学校の環境変化に対応した献血推進方策

- ① 高校生献血のあり方
 - 献血体験以外の有効な啓発手段は考えられないか
- ② 地域における献血のあり方
 - ドナーの年齢層、地域の特性により、献血推進方策が異なるのではないか
 - 献血バスの効率的な運用方法
- ③ 学校教育における啓発
- ④ メディア等を活用した広報戦略のあり方
 - 若年層個人に有効にアピールする広報戦略
 - 年齢層・地域の特性に対応した具体的広報戦略
 - 献血血液の使用状況の情報提供のあり方
- ⑤ 200 mL 献血の今後のあり方

2. 採血基準の見直し

献血推進のための環境整備として以下の採血基準の見直しは考えられないか

→ ワーキンググループを設置し、個別の見直し案についてエビデンスの検証等を行い、安全に施行可能かどうか等を検討

- ① 400 mL 採血、成分採血の下限年齢の見直し
 - ・ 「18歳～」→ 「17歳～」又は「16歳～」と見直すべきか
- ② 血小板成分採血の上限年齢の見直し
 - ・ 「～54歳」を引き上げるべきか
- ③ 採血基準項目の「血液比重又は血色素量」を「血色素量」に改められないか
- ④ 年間総採血量、年間採血回数、採血間隔の見直しについて
 - ・ 400 mL の年間採血回数：「男性3回以内」→「男性4回以内」など
- ⑤ 男性の血色素量最低値を見直すべきか
 - ・ 現行の「12.5 g/dL」→「13.0 g/dL」など
- ⑥ 未成年者のインフォームドコンセント、ドナーの安全対策についてどう考えるか(海外との比較を念頭に)
- ⑦ その他見直しが必要な事項

3. その他

- ① 注射時の「痛み」を和らげる方策
 - ・ 針を細くすることは不可能か
 - ・ 薬剤などにより痛みを和らげる方法はないか
- ② 今後の課題

「採血基準見直しの検討に係るワーキンググループ」の設置について(案)

1 目的

「献血推進のあり方に関する検討会」(以下「検討会」という。)の審議事項である「採血基準見直しの検討」について、以下(1)～(4)に掲げた個別の見直し案等についてエビデンスの検証等を行い、安全に実施可能かどうかを検討する。

- (1) 400 mL 採血、成分採血の下限年齢の見直し
 - ・「18歳～」→「17歳～」又は「16歳～」と見直すべきか
- (2) 血小板成分採血の上限年齢の見直し
 - ・「～54歳」を引き上げるべきか
- (3) 採血基準項目の「血液比重又は血色素量」を「血色素量」に改められないか
- (4) 年間総採血量、年間採血回数、採血間隔を見直すべきか
 - ・400 mL の年間採血回数：「男性3回以内」→「男性4回以内」など
- (5) 男性の血色素量最低値を見直すべきか
 - ・現行の「12.5g/dL 以上」→「13.0g/dL 以上」など
- (6) 未成年者のインフォームドコンセント、ドナーの安全対策についてどう考えるか
(海外との比較を念頭に)
- (7) その他見直しが必要な事項

2 組織及びメンバーの構成(メンバー構成・案は別紙)

- (1) ワーキンググループは、7～8人程度のメンバーで構成する。
- (2) ワーキンググループに座長を置く。
- (3) 座長は、会務を総理し、会を代表する。
- (4) ワーキンググループは、必要に応じ、関係者から意見を聴取することができる。
- (5) 検討会の委員及び厚生労働省医薬食品局血液対策課は、オブザーバーとしてワーキンググループに出席することができる。

3 ワーキンググループの運営

- (1) ワーキンググループの運営は、検討会からの要請により、(財)血液製剤調査機構が行う。
- (2) ワーキンググループの運営に関し必要な事項は、(財)血液製剤調査機構が座長と協議の上定める。また、検討結果は、検討会に報告し、了承を得るものとする。
- (3) ワーキンググループは、原則非公開で開催するものとする。

SHA M SHA+ARE N D ARE

ライブ・イベントを核とした社会貢献活動事例集



2008年11月

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

コンサートを核とした社会貢献活動事例集

世界には様々な形の社会貢献の形がありますが、ここでは、ライブ・コンサート・イベントに特化した活動事例をご紹介します。

ライブ・イベントは、出演者とスタッフ、そして観客が一体となって作り上げるものです。そのマインドは、助けを必要としている方とそれを助けるスタッフ、そして献血をする方が一体となって実施する献血活動にも通じるものがあります。

音楽という、世代を

喜びも苦しみも共有し、



超えた共通言語を通じて

分かち合っていきます。

SHA + RE MIND

S = She...彼女も...

H = He...彼も...

A = All...全てで共有し、分かち合う

「楽しいこと。」「うれしいこと。」は、共有することでその喜びは2倍にも3倍にも広がります。

逆に悲しみや苦しみは、分かち合うことで安らぎ、明日への活力となります。

ライブ・イベントと、献血への啓蒙活動をリンクさせることで、皆が喜びも苦しみも共有し、分かち合えることと思い、事例集をご紹介します。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

実施概要



あなたには何ができますか？
飲酒運転をなくするために

- タイトル: FM OSAKA STOP! DRUNK DRIVING PROJECT—SDD—
- 実施日程: 2007年10月15日～2008年3月末
- 主催社: FM OSAKA
- 名義関連: 後援: 内閣府、警察庁、法務省、国土交通省、大阪府、大阪市、大阪府警察、
(財)交通遺児育成基金、大阪市道路公社
特別協力: JFN(JAPAN FM NETWORK)、関西テレビ放送
- 協賛社: コア・パートナー: 阪急電鉄、阪神電気鉄道
サポート・パートナー: 第5回大阪モーターショー
パートナー: 朝日新聞社、アシスト、インターレックス、グルメ杵屋、
中央自動車工業、トヨタ自動車、日航ホテルズ、
NEXCO西日本、阪神高速地域交流センター、
八戸ノ里ドライビングスクール、ロート製薬
ヨドバシカメラ マルチメディア梅田、読売新聞大阪本社
- ターゲット: 若者を中心に、日本で生活する全ての方をターゲット。
- 実施目的: 飲酒マナーの向上、運転マナーの向上訴求により、飲酒運転防止・撲滅プロジェクトを推進する。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

実施内容



- 放送展開: 啓蒙スポットCM、啓蒙番組、特別番組のオンエア。
啓蒙コメント付きの交通情報のオンエア。
- WEB展開: PC及び携帯にオリジナルサイトを制作。期間中掲示。メールマガジンの配信。
- 募金展開: イベント会場及び一般電話により、募金を呼びかけ。(合計2千万円以上を寄付)
- 印刷物展開: 啓蒙ポスターを制作し(計5タイプ)、梅田駅周辺を中心に掲示。
ステッカー、啓蒙リーフレットを制作し、街頭やイベント会場で配布。
タイムテーブル、新聞等で啓蒙告知。
- 署名展開: 賛同アーティストや、一般賛同者から署名を募り、イベント会場等で掲出。
(最終的に4千枚以上を回収)
- イベント展開: 賛同アーティストの出演による啓蒙イベントの実施。(計4回)
プロジェクトの集大成である、「LIVE SDD2008」の実施。(大阪城ホールにて)

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

ライブ・イベント詳細



- タイトル: LIVE SDD 2008
- 実施日程: 2008年2月20日(木) 17:30開場/18:30開演/22:00終演
- 実施会場: 大阪城ホール(大阪府中央区)
- 集客数: 約10,000名
- 実施内容:
 - ①趣旨に賛同するアーティスト(12組)の出演によるライブ・コンサート。
 - ②趣旨に賛同する来場者1万名による合唱。
 - ③長岡天満宮に奉納し、お祓いを受けた交通安全缶バッジの配布。
(出演者のメッセージ入り)
 - ④署名活動(SDD参加宣言カード)の記入促進・回収。
 - ⑤募金箱の設置による、募金活動。
 - ⑥ライブ・イベントの様相を収録し、FM OSAKA、JFN系フルネット番組、
関西テレビにてオンエア。
 - ⑦集まった参加料2000円×1万名 計2千万円を(財)交通遺児育成基金へ寄付。

ライブ・イベント出演者(全12組)

STARDUST REVUE、TRF、MAX、馬場俊英、Every Little Thing、小柳ゆき、BoA、mihimaru-GT、SunSet Swish、FUNKY MONKEY BABYS、WRECKING CREW ORCHESTRA、MORTAL COMBAT

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA



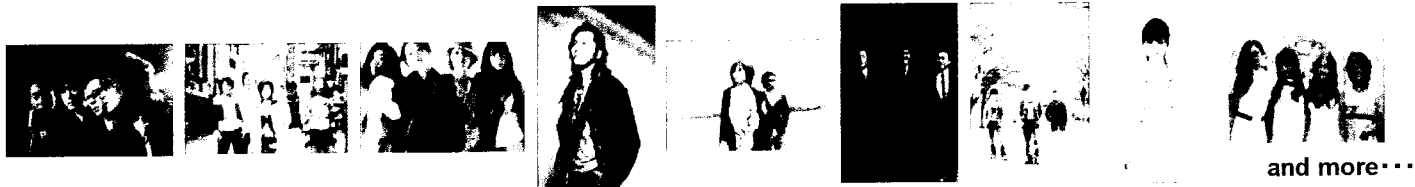
そして、2009年2月20日(金)第2弾ライブ、 LIVE SDD2009 開催決定!

- 実施日時: 2008年2月20日(金)
- 実施場所: 大阪城ホール
- 募集人員: 12月1日(月)より、抽選で合計1万名が参加。
- 参加条件: 飲酒運転撲滅の趣旨に賛同し、ドネーション(参加料)2千円を募金。

集まった募金合計2千万は、今年度も全額、
(財)交通遺児育成基金へ寄付します!

ライブ・イベント出演者

STARDUST REVUE、TRF、SPEED、石井竜也、mihimaru-GT、風味堂、SunSet Swish、奥村初音、BRIGHT



お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

実施概要JAF 45th PROJECT
KIDUNA

- タイトル: JAF presents KIDUNA ~Happy Drive~ 2008
- 実施日程: 2008年10月12日(日)~11月23日(日)
- 主催社: FM OSAKA
- 協賛社: 社団法人 日本自動車連盟
- 出演: 山本シュウ(プロジェクト・ナビゲーター) Skoop On Somebody (プロジェクト・リーダー)
大黒摩季/九州男/SEAMO/SOFFet/Full Of Harmony/夏川りみ/Leyona
- ターゲット: 20代・30代男女
- 実施目的: 「人の絆」を見失いがちな現代において、「Happy Drive」と「Good Music」のできる
「心のレスキュー」を見つけよう、をコンセプトに番組とキャンペーン、ライブを実施。

実施内容

- 放送展開: JFN加盟全国民放FM38局 55分間フルネットSTART特番(10月12日)
JFN加盟全国民放FM38局 55分間フルネットFINISH特番(11月23日)
キャンペーン展開を告知するスポットCMや各地区独自展開を38局で実施。
- WEB展開: オリジナルWEBサイト(PC)を制作し、38局及び協賛社にリンクバナー掲示。
- 募金展開: ライブ会場やライブチケットの一部を(財)交通遺児育成基金に寄付。
- 印刷物展開: キャンペーン告知リーフレット(10万部)を各局と協賛社各支部等に設置・配布。
- イベント展開: 全国5地区キャラバン(賛同アーティストとともに各局を訪問)
キャンペーンの集大成として、大阪・なんばHatchでのリスナー招待及びJAF会員招待によるライブイベント「KIZUNA~Happy Drive~FINISH2008」を開催。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

ライブイベント詳細

JAF 45th PROJECT
KIDUNA

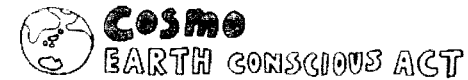
- タイトル: JAF presents KIDUNA ~Happy Drive~FINISH 2008
- 実施日程: 2008年11月17日(月) 開場18:00 開演19:00
- 実施会場: なんばHatch (キャパ1700名)
- 出演者: 山本シュウ(プロジェクト・ナビゲーター)
Skoop On Somebody (プロジェクト・リーダー/関西エリア代表)
大黒摩季(北海道エリア代表) / Full Of Harmony(東北エリア代表)
SOFFet(関東エリア代表) / SEAMO(東海エリア代表)
Levona(中・四国エリア代表) / 九州男(九州エリア代表)
夏川りみ(沖縄エリア代表)
- 実施内容: 趣旨に賛同するアーティスト(8組)の出演により、リレー形式でお送りするライブ・コンサート。
参加者には、チケット代のうち、1000円を募金として募り、交通遺児育成基金へ寄付。
さらには、当日の会場でも募金箱を設置。
ライブ・イベントの様子を収録し、11月23日(日)19時~19時55分に全国38局ネットでオンエア。



お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

実施概要



- タイトル: コスモ アースコンシャス アクト
- 実施日程: 2008年4月～2009年3月末(年間キャンペーン)
- 主催社: TOKYO FM 他、JFN加盟全国民放FM38局
- 協賛社: コスモ石油
- ターゲット: 20代・30代の環境意識の高い男女
- 実施目的: 「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」をテーマに、地球環境の保護と保全を全世界に呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」を展開。

実施内容

- 放送展開: レギュラーコーナー「コスモ アース コンシャス アクト ずっと地球で暮らそう。」(月～金/朝6:40)の全国ネット放送を中心に、スポットなどラジオでの告知展開。
- 清掃展開: 自然と親しみながら清掃活動等を行う、クリーン・キャンペーンイベント。(毎年全38地区+富士山で実施。)
- WEB展開: オリジナル・WEBサイトを開設し、活動告知や報告、さらにはアーティストからのメッセージ等を掲載。
- イベント展開: アースデー・ライブ・コンサートの実施及び、イベント模様の生中継。購入していただいたチケット料金の中から1ドルを、ワンガリ・マータイさんが進める植林活動「グリーンベルト運動」へ寄付。アフリカの大地に1本の樹を植樹。また、当日会場内でも募金活動を実施。(募金はトータルで720,043円) アルピニスト 野口健さんを迎えての講演会の実施。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

ライブ・イベント詳細



- タイトル: コスモ アースコンシャス アクト アースデー・コンサート
- 実施日程: 2008年4月22日(火) 開演18:00 開場19:00 ※毎年世界アースデーに実施。
- 実施会場: 日本武道館
- 集客数: 約10,000名
- 出演: 絢香、BONNIE PINK、ダニエル・パウター
- 実施内容: 1990年から毎年4月22日のアースデーに日本武道館で開催しているイベント。
「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」の趣旨に賛同したアーティスト
たちがコラボレーションし、地球への愛を謳いあげ、来場者と共感します。
①趣旨に賛同するアーティストと、来場者によるライブ・コンサートの実施
②イベント模様の生中継(当日19:00～21:00)。JFN系全国38局ネット及び
世界27の国と地域、66の放送局で中継。
③購入していただいたチケット料金の中から1ドルを、ワンガリ・マータイさんが
進める 植林活動「グリーンベルト運動」へ寄付。
会場内でも募金活動を実施。(募金はトータルで720,043円)



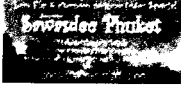
お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

実施概要

- タイトル: サワディ・プーケット・フェスタ イン バトンビーチ
- 実施日程: 2005年10月～11月末
- 主催社: FM OSAKA (協力:全国FMラジオ局約15社)
- 協賛社: タイ政府観光局、タイ航空
- ターゲット: ALLターゲット
- 実施目的: 2004に起きた、スマトラ島沖地震で甚大な被害を受けたタイ・プーケット島に日本からの観光客を再び誘致すること。

実施内容

- 放送展開: FM OSAKAのワイド番組を現地から生放送。
協力各局も、現地からの中継等を随時オンエア。
ツアー実施告知スポットCMをオンエア。
イベントの様相を収録し、後日特別番組としてオンエア。
- ツアー展開: 大手旅行代理店(HIS、JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行)及び、A&A(タイ専門の旅行社)との連携により、東京、大阪、名古屋、福岡発のツアーを実施。
合計3000名をプーケットへと誘致。
- WEB展開: ツアー情報、イベント情報、観光情報、番組のオンエア情報等を網羅した、オリジナルWEBサイト(PC)を制作し、関係各社とリンク。
- イベント展開: タイ政府観光局とFM OSAKAの合同主催により、二本とタイのアーティストが集まったライブイベント「サワディー・プーケット・フェスタ」を実施。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

ライブ・イベント詳細



- タイトル: サウディ・プーケット・フェスタ イン バトンビーチ
- 実施日程: 2005年11月19日(土)
- 実施会場: タイ・プーケット島、バトンビーチ
- 集客数: 約20,000名
- 出演: 全国FMラジオ局DJ
我那覇美奈、川嶋あい、武田幸三、林明日香、MAX、光永亮太(国内アーティスト)
タイ国内アーティスト4組、計10組
- 実施内容: 趣旨に賛同したアーティストの出演による、ライブ・コンサート。
ライブの様子を収録し、後日特別番組としてオンエア。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

実施内容

- タイトル: ハートエイド・四川
- 実施日程: 2008年7月14日(月)
- 主催社: ハートエイド／四川実行委員会
- 特別協賛: 日本航空
- 協賛: 藤田観光株式会社・株式会社ニチレイフーズ・トヨタ自動車株式会社・新日本石油株式会社他
- 後援: 読売新聞・産経新聞・中華人民共和国駐日本国大使館・日本赤十字社他
- 実施目的: 8万人以上の死者、行方不明者をだした四川大地震。いま、苦しんでいる四川の人々のために、その中で必死に生きている子どもたちの未来のために国境を越え賛同したアーティストが日本に集結。
- 実施内容: 「ハートエイド・四川」の舞台にたちメッセージを発信。
 - ①アーティストによるLIVEベントの実施。
 - ②チャリティーオークションの実施



ライブイベント詳細

- タイトル: ハートエイド・四川
- 実施日時: 2008年7月14日(月)開場18:00 開演19:00
- 実施会場: 東京国際フォーラム・ホールA
- 出演: ジュディ・オング、ジャッキー・チェン、南こうせつ、東儀秀樹、中孝介他
- 実施内容: 四川大地震の被災者へのチャリティーを目的としたライブ・イベント。



お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

実施概要

- タイトル: JET STREAM 40周年記念企画
- 実施日程: 2007年6月～11月末
- 主催社: TOKYO FM 他、JFN加盟全国民放FM38局
- 協賛社: 日本航空
- ターゲット: ALLターゲット
- 実施目的: 1967年から放送している長寿番組「JET STREAM」の40周年を記念して、リスナーへ感謝の気持ちを込めて展開。

実施内容

- 放送展開: 特別番組の放送。レギュラー番組を1時間拡大してオンエアする他、通常の番組(毎週月～金曜日 24:00～24:55)内でも、記念展開を実施。
- 機内展開: 期間限定で、番組をJALの機内でオンエア。
- WEB展開: 特設WEBサイト「夢旅」を制作。リスナーの夢の旅を募集し、最優秀夢旅賞1名様に、ペア世界一周旅行をプレゼント。
- イベント展開: 恵まれない子供たちと地球環境保護団体へのサポートを目的とした、チャリティー・コンサートを実施。合わせて、同コンサートを観覧するツアーも催行。収益の一部は寄付。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

ライブイベント詳細

- タイトル: TOKYO FM JET STREAM 40th ANNIVERSARY
「国境なき合唱団」チャリティーコンサート2007 IN ウィーン
- 実施日程: 2007年11月26日(月) 20:00~22:00
- 実施会場: ウィーン楽友協会 大ホール(オーストリア)
- 集客数: 300名
- 出演: 鮫島有美子(第一部)、佐藤一昭(指揮・第一部)
ダニエル・ホーイェム・カヴァッツァ(指揮・第二部)、ウィーン室内管弦楽団(第二部)他
- 実施内容: ①チャリティーを目的としたコンサート・イベント。
参加者とともに、ベートーヴェン交響曲第9番などを合唱。
②コンサートへの参加を中心としたツアーの催行。(11月23日~28日)
③参加費の一部と、募金により、寄付金(2,247,211円)を集め、児童福祉組織
「ウィーンの森・SOS子どもの村(SOSキンダードルフ)及び特定非営利活動法人
「国境なき子どもたち」に寄贈。
④ツアー及びコンサートの模様を収録した特別番組をオンエア。

お問い合わせ 本社営業部 06-4396-0852 東京支社 03-3222-0852

FM OSAKA

血液事業を支える人たち

企業や公共団体



街頭イベントでの献血会場

「献血してくれた人たちが、私たちの気持ちを伝えたい」と、小笠原さんとたつたある男の子のお母さんと日本赤十字社の駐日ルー・マッセルシーを話し、清血や事故の治療に使う血液を、村に届けてまかなわねばならない。献血者が減少する傾向がありますが、その数値がなげば、日本の医療もものも足りなくなってしまうのではないかと懸念されています。

「献血してくれた人たちが、私たちの気持ちを伝えたい」と、小笠原さんとたつたある男の子のお母さんと日本赤十字社の駐日ルー・マッセルシーを話し、清血や事故の治療に使う血液を、村に届けてまかなわねばならない。献血者が減少する傾向がありますが、その数値がなげば、日本の医療もものも足りなくなってしまうのではないかと懸念されています。

呼びかけに応え緊急の協力も

「献血してくれた人たちが、私たちの気持ちを伝えたい」と、小笠原さんとたつたある男の子のお母さんと日本赤十字社の駐日ルー・マッセルシーを話し、清血や事故の治療に使う血液を、村に届けてまかなわねばならない。献血者が減少する傾向がありますが、その数値がなげば、日本の医療もものも足りなくなってしまうのではないかと懸念されています。

いのちをつないだ献血

「アンパンマンのエキス」



りょうすけくんとお母さんのなつちゃん



神戸、三宮セントラル病院のICU病室で治療中のりょうすけくん(2月27日から「ミンパ」15歳入籍)

輸血を支えているのは 善意の献血です

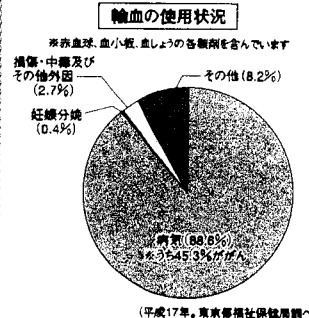
過酷な治療を支えた輸血

ある男の子の闘病記

「献血してくれた人たちが、私たちの気持ちを伝えたい」と、小笠原さんとたつたある男の子のお母さんと日本赤十字社の駐日ルー・マッセルシーを話し、清血や事故の治療に使う血液を、村に届けてまかなわねばならない。献血者が減少する傾向がありますが、その数値がなげば、日本の医療もものも足りなくなってしまうのではないかと懸念されています。

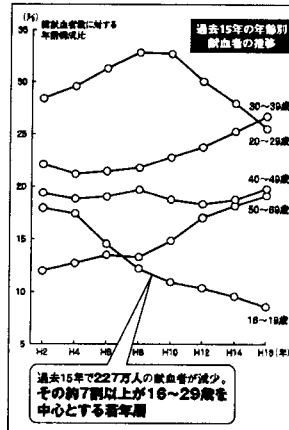
がん治療にもっとも必要とされる輸血

交通事故など不慮の災害などの時に輸血は必要です。一般にそのイメージが強くなりますが、実際の血液の使われ方では意外にも事故は少なく、もっとも輸血が必要な場面はがんの治療です。病気のうち半分ががん治療で、りょうすけくんがたまたま神経細胞腫もその一つでした。

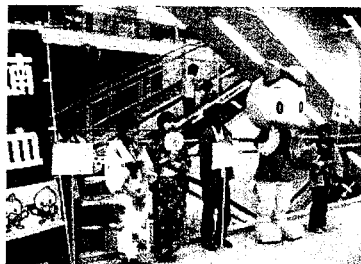


ありがとうの 気持ちがあふれ

「献血してくれた人たちが、私たちの気持ちを伝えたい」と、小笠原さんとたつたある男の子のお母さんと日本赤十字社の駐日ルー・マッセルシーを話し、清血や事故の治療に使う血液を、村に届けてまかなわねばならない。献血者が減少する傾向がありますが、その数値がなげば、日本の医療もものも足りなくなってしまうのではないかと懸念されています。



献血募集呼びかける学生団体も



学生献血ボランティアが企画した献血の呼びかけ

「献血してくれた人たちが、私たちの気持ちを伝えたい」と、小笠原さんとたつたある男の子のお母さんと日本赤十字社の駐日ルー・マッセルシーを話し、清血や事故の治療に使う血液を、村に届けてまかなわねばならない。献血者が減少する傾向がありますが、その数値がなげば、日本の医療もものも足りなくなってしまうのではないかと懸念されています。